

遊休地へ太陽光発電設備

木製架台と環境パイルを使用

兼松日産農林

兼松日産農林(東京都、高崎實社長)は、淡路島のマッチ工場遊休地(兵庫県淡路市、約6000平方メートル)に、太陽光発電を設備している。同社では、昨年から太陽光発電システムの木製架台(ウッドディーソーラーフレーム)を製造・販売していることから、自社用地に商品展示を兼ねた太陽光発電を設置し、木製架台の普及啓もうに努める方針だ。

同社はマッチ製造でしたままで、土地の有効活用が課題になってきた。国内のマッチ製造業界では、家庭用マッチでNo.1のシェア。現在でもマッチ部

淡路工場として象印や燕印、桃印ブランドの家庭用マッチの製造を続けている。マッチ箱は古紙のリサイクル品を使い環境・品質ISO認証を取得しているが、マッチ工場の隣接地に遊休不動産を所有



兼松日産農林の遊休地に設備した太陽光発電システム。同社の木製架台や環境パイルを採用している

の薬剤(ニコン口の使用などにもツサンAQを考慮している)(高崎社長)という。なお、太陽光発電設備の建設現場にはCCCTVシステム事業部が取り扱う「遠隔監視カメラ」が取り付けられている。本社に居ながら、リアルタイムで太陽光発電設備の現在の施工現場情報をモニターで確認できるシステムを構築している。

の8枚セットが一基として、72基を設置する。最大発電量は147kW。

同社の野立用太陽光発電システムの木製架台は桁やタルキ、柱は杉の90°角仕様。方杖は45×90とすべて既製品を使用し、架台需要の多いスチール、金属価格と大差ない水準に近づけている。総木材使用量は17立方メートル。樹種は全量杉。東北の自社工場では防蟻・防蟻

採用された。太陽光パネルの木製架台と専用木製杭の木材使用で環境性能が向上。軟弱地盤のメガソーラーや太陽光発電設備には、エコージョーな地盤補強工法(木製杭を使用した)の環境パイル工法を併用することで、大きく環境負荷低減を可能にした。関西電力へ売電するが「災害時には地域貢献策として、近隣住民の携帯電話充電やIH

高崎社長も「マッチ部淡路工場の隣接遊休地は毎年、固定資産税だけで約100万円支払っていた。太陽光発電は初期投資の費用はかかるが、固定価格買取制度を利用すれば、全量売電すると年間約600万〜700万円の収入になる。周辺が宅地化され、生産設備

土地代金は別にして総投資額は約5000万円。太陽光発電のパネルメーカーはハンファQセルズ社。発電規模はパネルが4段2列